

取組概要

浜通り地域等で、研究とも連携し、福島ロボットテストフィールドを活用したロボット産業振興と地域の教育機関及び地元企業と連携して若手のロボット・ICT人材を育成する。人材育成における協業を通じて地元企業等のロボット産業に関する取組の促進、支援を行い、技術力の向上と連携体制の強化を図る。また、浜通り地域への進出企業を含む地元企業と産学官が一体となった若手人材育成の体制づくりに貢献する。

○浜通り地域等におけるロボット・ICT人材の育成

南相馬市の高校生等を中心としたロボット技術やプログラミングの技術習得。福島大学、東北大学、長崎大学、いわきコンピュータ・カレッジ、福島県ハイテクプラザ、南相馬市内ロボット関連企業等と連携した人材育成

○浜通り地域等におけるロボット産業振興に関する取組の促進、支援

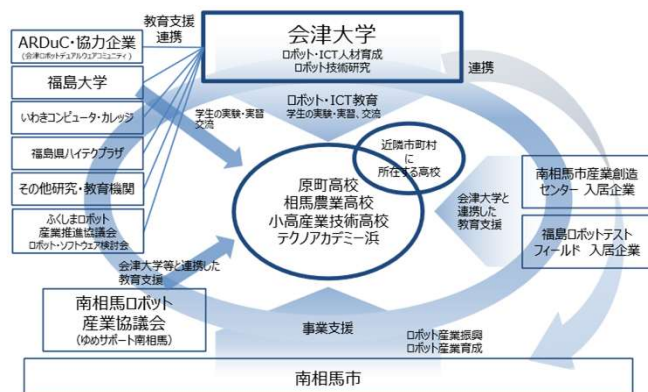
南相馬ロボット産業協議会との連携やワールドロボットサミット（WRS）参加支援など地元企業等との協業。WRS2020参加支援、WRS2025の南相馬ロボット産業協議会と会津大学の共同出場、当該プロセスの人材育成への応用、福島ロボットテストフィールド（RTF）の活用

○「復興知」事業での「知」の浜通りにおける横展開の検討と試行

南相馬市を基点・モデルとした浜通りの復興創生及び人材育成支援

○浜通りにおける「復興知」事業参加研究・教育機関連携の強化

地域共創分科会、南相馬市分科会幹事校、TA（Teaching Assistant）参加やTA育成教育等を通じた福島県などの教育機関との連携



人材育成目標①
将来的な産業発展に寄与できる
若手人材を育成する



人材育成目標②
ロボット・ICT技術を高校生等に
教育することのできる人材を育成する

これまでの成果



Pythonプログラミング演習



若手人材ロボット技術演習

復興知事業開始以降一貫して、「作成した教材の公開」、「地元企業・福島県研究教育機関と連携した人材育成」を重視して事業を実施してきた。

○Pythonプログラミング演習

Pythonの基礎文法を網羅したテキストを制作・公開し、プログラム自動判定システム「Aizu Online Judge」（通称：AOJ）と連携させることで、誰でも自由に学べる環境を整備した。一部高校では教員も演習に参加し、指導法の共有が進んだ。事業終了後のプログラミング教育の自走化を目標として取り組んでいる。

○若手人材ロボット技術演習

ロボット技術教育では、南相馬ロボット産業協議会との連携により、地元企業を講師として招き、演習を実施してきた。企業に教育ノウハウが蓄積され、指導も主体的に行われるようになったほか、地元校と企業との連携が深まった。現場エンジニアによる直接指導も行っており、実践的な人材育成が進んでいる。演習に携わった地元企業の講師が地元教育機関の講師として活躍している。

今後の展開

2025年度までの復興知事業での活動を踏まえ、会津大学RTF研究センターを中心に、RTFを基盤とした下記3点を軸とする研究・教育活動及び研究・教育活動における浜通り地域等の地元産業界との連携を推進する。

○南相馬におけるロボット技術を軸にした産学官コミュニティの活動継続

○福島県内の教育・研究機関との連携を通じたRTF活用とRTFを基盤とした教育・研究活動における連携の継続及び福島国際研究教育機構（F-REI）との連携

○RTF活用における教育・研究機関と南相馬企業コミュニティとの連携事業創出

RTFを利用したオープンイノベーションを継続し、標準ソフトウェアを活用したロボットの設計・開発と運用、ロボットデータのRTFでの活用などを検討し、技術を継続的にデモンストレーションできる環境構築を進める。

